

2023 年度（第 46 期）第 3 回理事会 議事録

日 時：2024 年 5 月 30 日(木)14:00～15:20

形 式：Web 会議形式

出席者：藤野裕士（理事長）、内田寛治、大塚将秀、志馬伸朗、竹内宗之、竹田晋浩、
中根正樹、吉田健史、石井宣大、佐藤暢一、玉木 彰、茂呂悦子
（各理事）、西田 修、川前金幸（監事）

欠席者：近藤康博、平井豊博（理事）

（敬称略）

- ・理事会開催に必要な理事の過半数の出席が報告され開会が宣言された。

I. 報告事項

1. 前回理事会議事録の確認・承認（藤野理事長）

- ・前回議事録は、原案どおり承認された。

2. 持ち回り理事会（審議 2 件、連絡 2 件）の確認・承認（藤野理事長）

1) 2024 年度論文賞 選考結果について

- ・優秀論文賞 1 編、奨励論文賞 2 編の選出を承認した。

2) 代議員審査結果について

- ・2 年に一度の代議員審査を行い、更新 100 名・新規 38 名、計 138 名を承認した。

3. 理事長報告（藤野理事長）

1) 学術集会に向けた情報共有

- ・2024 年 5 月 10 日(金)13:00～14:00 に理事・監事にオンラインで参集いただき、第 46 回学術集会の予算状況、協賛関連、使用会場などについて情報共有を行った。

2) 会員管理システム導入について

- ・導入予定のシステムは日本集中治療医学会が所有権を持っており、費用負担や支払方法などについて先方での議論を待っている。審議事項にて議論・情報共有を行う。
- ・本会に適合するシステムの要件定義について引き続き検討を行う。

4. 事務局からの報告（佐藤理事）

- ・2024 年 5 月 1 日時点の会員数が以下のとおり報告された。

一般会員：1,818 名（Dr 1,118、Ns 254、CE 314、PT 109、他 23）

賛助会員：14 社／年間購読契約：8 件

- ・会員動向は、年度が変わり資格喪失退会が生じ、前年度同時期に比べ医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士いずれも微減傾向に転じた。
- ・一般会員の会費納入状況は、2022 年度が 92.9%、2023 年度が 85.1%であった。
- ・賛助会員が 1 社退会となった。継続への働きかけが必要である。

5. 学術集会報告、準備状況

1) 第 46 回学術集会（中根会長）

2024 年 6 月 28 日(金)・29 日(土)天童ホテルほか（山形、OD）「標す」

- ・収支計画の見直しを行い、参加者 1,000 名の想定で 7 千万円弱の予算を策定した。

2) 第 47 回学術集会（吉田副会長）

2025 年 8 月 30 日(土)・31 日(日)グランキューブ大阪（大阪）

運営事務局：クレッシー社

- ・次回学術集会のポスター・リーフレットを山形でお披露目する予定である。

3) 第 48 回学術集会（平井理事 代 藤野理事長）

2026 年 7 月 4 日(土)・5 日(日)国立京都国際会館（京都）

- ・本体会計からの援助費を先行して送金し、2024 年 3 月に会場費の第 1 回前納金 734,280 円を国立京都国際会館に支払った。

6. 事業報告

1) セミナー事業（大塚理事）

- ・第 53 回日本呼吸療法医学会セミナーの参加登録状況は約 600 名。
受講期間は 7/1～31。受講料は 7,700 円（税込）。

2) 呼吸療法専門医研修施設 2024 年度〈更新・新規〉申請（佐藤理事）

- ・現時点で更新 6 施設（対象 8）、新規 6 施設からの申請を受理している。

7. その他、今後の理事会予定（藤野理事長）

1) 2023 年度理事会日程

- ・第 4 回理事会（集合形式、山形） 6 月 27 日(木)14:00～15:00

2) 2024 年定時社員総会

6 月 27 日(木)15:30～17:30 緑の迎賓館 アンジェリーナ（天童）

3) 後援行事について

- ・前年に後援を承認した「雪国フォーラム」について、第 2 回の開催に対して会員への周知をするなど協力することが報告された。

II. 委員会報告

1. 将来計画・財務委員会（委員長 藤野裕士）

1) 活動実績

- ・若手登用を推進し、2024 年度代議員に新規 38 名が就任。
- ・広報委員会の設置に向けて多職種から委員を推薦中。

2) 今後の活動

- ・会員管理システムの導入（日本集中治療医学会より導入予定）。
- ・他学会との連携、学術集会相互支援、認定制度の単位付与などを継続。

2. 編集委員会（委員長 藤本潤一／担当理事 竹内宗之）

1) 機関誌

- ・第40巻第2号（2023年11月30日）、第41巻第1号（2024年5月30日）の発行と、第41巻第2号（2024年11月30日）の企画案が報告された。

2) 投稿論文

- ・2023年度は投稿数が20編で前年度の16編を上回った。

3) ユーザーレポート

- ・第39巻（2022年度）が4社、第40巻（2023年度）が4社の掲載となった。

4) 2024年度論文賞

- ・優秀論文賞1編、奨励論文賞2編を選出し理事会で承認された。第46回学術集会で表彰を行う予定である。

5) 誌名変更

- ・第41巻第1号（2024年5月）から誌名を『呼吸療法』へと変更し、それにあわせて表紙・本文デザインを一新した。

6) 用語集

- ・現在の第2版の改訂を計画中である。

3. 代議員審査委員会（委員長 青景聡之／担当理事 平井豊博）

1) 新規 代議員審査結果：2024年3月1日～4月30日

- ・38名の新規申請を認定し、理事会で承認された。

2) 更新 代議員109名 更新審査結果：2024年3月1日～3月31日

- ・年齢条項による6名と辞退の3名を除く100名の再任希望者の活動状況を審査し、すべて認定した。理事会で承認された。

4. 小児在宅人工呼吸検討委員会（委員長 寺澤大祐／担当理事 竹内宗之）

- ・在宅人工呼吸器の普及が急速に拡大し、小児在宅の分野は重要な領域になりつつある。第3版の制作に向け、現委員がコアとなり制作陣を組織する計画である。
- ・第46回学術集会で委員会企画を開催する。

5. セミナー委員会（委員長 方山真朱／担当理事 大塚将秀・玉木 彰）

1) 活動報告（2023年度）

- ・3つのオンラインセミナーを実施し、以下の収支を計上した。（税別）

	受講料収入	講演料	委託料など	事務局費	収 支
第52回セミナー(921名)	6,447,000	546,730	1,858,054	150,000	+3,892,216
第2回 Refresher(88名)	968,000	364,487	717,072	100,000	-213,559
第13回 Basic(338名)	3,718,000	425,231	985,859 (宣伝)128,459	100,000	+2,078,451

2) 活動計画（2024年度）

- ・第53回医学会セミナー（メディカルスタッフ向け9講義）

プランナー：小野寺悠 委員

受講期間：7/1～7/31 受講料：7,700 円（税込、テキスト代含む）

点 数：3 学会合同呼吸療法認定士の更新・受験申請点数（25 点）付与

- ・医師向けセミナー第 3 回 **Refresher** コース（医師中級者向け 6 講義）

プランナー 板垣大雅 委員

受講期間：11/1～11/30 受講料：12,100 円（税込、テキスト代含む）

教 材：『呼吸療法専門医テキスト』（専門医制度との連動）

- ・医師向けセミナー第 14 回 **Basic** コース（医師初級者向け 7 講義）

受講期間：3/1～3/31 受講料：12,100 円（税込、テキスト代含む）

4) サマーキャンプ in 蓼科 ハンズオンセミナー「人工呼吸器」

- ・主 催：日本集中治療医学会
- ・講 義：4 ブースでハンズオン、セミナー委員 OB 含めて総勢 10 名
- ・日 程：2024 年 7 月 18 日(木)～19 日(金)

6. チーム医療推進委員会 （委員長 佐藤暢夫／担当理事 大塚将秀・茂呂悦子）

1) 委員会開催

- ・2023 年度は第 2 木曜日 18 時からの定例 Web 会議を 7 回開催した。

2) Joyful Board（会員限定意見交換掲示板）

- ・会員専用ページで会員同士が意見交換できる掲示板「Joyful Board」を 2023 年 12 月に設置した。2024 年 5 月末時点で、前年 8 月の試用期間も含め 20 件以上の投稿があり 110 件以上の回答があった。アクセスカウンターは「850」を数えている。
- ・今後、投稿を内容別に 16 の項目に分類する計画

3) 学術集会企画

- ・第 46 回学術集会で 3 つの委員会企画を実施。演者への質問や意見交換の場として Joyful Board の活用を提案。

6-2. RST プロジェクト （委員長 長谷川隆一／担当理事 佐藤暢一）

1) 認定状況

- ・RST 認定登録施設数：45 施設（前年の総会報告時は 43 施設）

2) RST プロジェクトの今後

- ・認定施設による UMIN のデータベースは欠損値が多く質の改善の見込みも薄いためあと数年運用してデータをまとめた後、終了する。
- ・データベース運用終了までの間は、実務を担う西村、長谷川（呼吸療法）、南雲（ケアリハ）の 3 名で規模を縮小して運用する。

7. 安全対策・危機管理委員会 （委員長 中根正樹／担当理事 内田寛治・石井宣大）

1) 人工呼吸器の作動停止事例情報収集（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

- ・情報提供数：5 件（実害なし 3 件、一時的低酸素血症 2 件、後遺症あり・死亡 0 件）
（アラーム発令 4 件、停止に気づいたもの 1 件）

- ・作動停止事例の入力フォームについて、日本臨床工学技士会・医薬品医療機器総合機構などと協議のうえ共通化する案を検討中である。
 - ・医療安全全国共同行動 2024 年度定時社員総会で報告をしている。いつまで停止事例の収集・報告を行うかについて次期委員会で検討する。
- 2) 『人工呼吸器安全使用のための指針（第 2 版 2011 年）』改訂
- ・日本臨床工学技士会（窓口：木村政義様）と日本クリティカルケア看護学会（窓口：濱本実也様）との 3 学会で協業する合意を得た。次期委員長のもと改訂を進める。
8. 専門医委員会（委員長 江木盛時／担当理事 佐藤暢一・藤野裕士）
- 1) 呼吸療法専門医 2023 年度筆記試験
- ・2023 年 12 月 2 日(土)11:30～13:10 に新大阪で 32 名が受験し 31 名が合格した。
- 2) 2023 年度審査結果
- ・研修施設が 129 施設、呼吸療法専門医が 325 名となった。
9. ECMO プロジェクト委員会（委員長 清水敬樹／担当理事 竹田晋浩）
- 1) ECMO 適応等の診療相談・出張往診等
- ・電話・インターネットによる相談窓口を常設（24 時間対応，土日祝日含む）
⇒相談数は極めて少ないものの継続の要望は強い。今後の継続を再検討。
 - ・依頼があった施設へ医師を派遣し、ECMO 適応・呼吸管理法についてのコンサルテーションを実施。依頼元施設で治療継続困難な場合、適切な転院施設を探し、転院方法・車両等を含めて手配。
- 2) 他学会との連携
- ・日本救急医学会の ECMO プロジェクト、日本集中治療医学会の ECMO プロジェクトとの合同委員会企画等を各種学術集会で適宜開催。
 - ・日本心肺補助学会の設立に伴い、ECMO プロジェクトの果たすべき役割を再確認。
 - ・ELSO や Euro ELSO、Asia-Pacific ELSO などの支部とも連携。
⇒2026 年の学術集会で Asia-Pacific ELSO の共催を目指す。
- 3) ECMO 従事者養成研修
- ・初級編・上級編，ECMO 搬送訓練など、難易度・目的を変えて、受講者のニーズに合った内容の講習会を継続して開催していく。
 - ・日本 ECMO net と協働して、小児領域の ECMO 従事者養成研修の実現も目指す（2024 年 9 月に岡山で第 1 回を開催予定）。
- 4) 呼吸 ECMO のレジストリー
- ・COVID に関する CRISIS によるレジストリーは 2022 年 3 月 31 日で終了となり、今後、従来 ECMO プロジェクトで行っていたレジストリーを、モダリティと内容を変更して再開する方針である。
10. 利益相反委員会（委員長 島田二郎／担当理事 竹田晋浩）
- ・気管吸引ガイドライン改訂における各 FQ・BQ の推奨案を評価する 16 名の COI 状

況を確認した。

- ・オンラインでの COI 申告システムを導入した。
- ・継続して日本医学会 COI 管理ガイドラインを注視していく。

11. 社会保険委員会（委員長 志馬伸朗／担当理事 平井豊博）

1) 内保連の加盟状況

- ・加盟認定；2018 年度より加盟
- ・代表委員；近藤康博理事、志馬伸朗理事、平井豊博理事の 3 名を登録
- ・診療領域別委員会（以下 4 委員会）

01. 検査関連 03. リハビリテーション関連 10. 呼吸器関連 20. 在宅医療関連

2) 令和 6 年度診療報酬改定提案：医療技術評価分科会判定結果

- ・未収載「酸素ボンベ安全性加算」 評価すべき医学的な有用性が十分でない
- ・既収載「基礎代謝測定（間接熱量測定）」別途評価を行うべき根拠が十分でない

12. 倫理委員会（委員長 大塚将秀／担当理事 志馬伸朗）

- ・活動計画、次期委員長人事、学術集会企画、次期委員会人事などを審議した。
- ・第 46 回学術集会で委員会企画を開催する。

13. 学術集会あり方検討委員会（委員長 中根正樹）

- ・第 44 回学術集会から採用している学術集会抄録アプリを継続使用する。

14. 学術研究推進委員会（委員長 吉田健史／担当理事 志馬伸朗）

- ・「集中治療と医療の質指標と VAE（略称）」

統計解析を TXP メディカルに委託し解析。複数の論文が輩出されることを目標。

- ・トロント大学「A survey of when to intubate in hypoxemic respiratory failure」

アンケートを、会員を対象にオンラインで実施（2023 年 10 月）。

侵襲的人工呼吸管理開始の決定に関わる医療従事者を対象。

挿管・人工呼吸管理開始の決定にかかわる種々の因子を定量評価する目的。

- ・「ARDS 患者に対する ECMO 管理中の至適 PEEP の検討」

大下慎一郎先生（広島大学大学院救急集中治療医学）のもと RCT として進行中。

- ・「小児心臓血管外科術後患者における高流量式鼻カヌラの効果」

吉田健史委員長（大阪大学大学院麻酔集中治療医学）のもと進行中。

- ・「COVID-19 患者における急性呼吸不全に対する非侵襲的呼吸管理デバイス（HFNCOT、CPAP、NPPV）の有効性と安全性の検討」

近藤康博先生（公立陶生病院）のもと進行中。

- ・「気管支喘息、COPD 増悪時の吸入療法の実態調査」

奥田みゆき先生（大阪南医療センター呼吸器・アレルギー内科）のもと進行中。

日本集中治療医学会・日本呼吸器学会・本会の会員を対象にアンケートを実施。

（2023 年 10 月～11 月 20 日）。全国的にデータを収集し吸入療法の実態を把握。

英文での結果報告を作成中。転載許可が得られれば本会機関誌でも発表予定。

15. 自発呼吸アセスメント指針作成ワーキンググループ（担当理事 中根正樹）
・今期で活動をいったん終了することとした。
16. 気管吸引ガイドライン改訂ワーキンググループ（委員長 中根正樹）
『気管吸引ガイドライン 2023〔改訂第 3 版〕（成人で人工気道を有する患者のための）』
・2023 年 12 月に学会ホームページにて学会誌第 41 巻第 1 号（2024 年 5 月発行）の
先行公開記事として掲載した。
・日本医療機能評価機構 Minds より「Minds ガイドラインライブラリ」上での本ガイ
ドライン掲載依頼があり承諾した。
17. ARDS 診療ガイドライン 2026 作成委員会（担当理事 竹内宗之）
1）組織：日本集中治療医学会・日本呼吸器学会・日本呼吸療法医学会の 3 学会合同
委員長 大下慎一郎・則末泰博
副委員長 岡森 慧・安田英人・竹内宗之
委員_班長 中島幹男・阿南圭祐・片岡 惇・成田知大・三浦慎也
サポート班 真弓卓也（リーダー）岸原悠貴・岡田遥平・山本良平・林健一郎（サブ）
オブザーバー 橋本 悟
担当理事 田坂定智（オブザーバー）・竹内宗之
2）パネル会議：・2024 年 5 月 12 日(日)にパネル会議を開催し CQ が決定した。

Ⅲ. 審議事項

第 1 号議案 次期委員会人事の件（佐藤理事）

- ・以下のとおり、各委員会委員の新規・後任候補が承認された。
- 1）小児在宅人工呼吸検討委員会
 - ・新任として 林 久美子代議員（CE）
- 2）セミナー委員会
 - ・鶴澤吉宏委員 の後任、医師委員の新任として
秋保 光利会員（PT）、大村 和也会員（Dr） を推薦
- 3）チーム医療推進委員会
 - ・新任として 中澤 英俊会員（Ns） を推薦
- 4）安全対策・危機管理委員会
 - ・中根正樹委員長 の後任に 横山 俊樹代議員（Dr） を推薦
- 5）ECMO プロジェクト委員会
 - ・新任として 劉 啓文会員（Dr） を推薦
- 6）倫理委員会
 - ・大塚将秀委員長、赤嶺史郎委員、清水孝宏委員、布宮 伸委員 の後任に
横山 俊樹代議員（Dr）、神谷 敏之代議員（CE）、辻本真由美会員（Ns）、
岡森 慧代議員（Dr） を推薦、その他、田邊 優子会員（Dr） を追加推薦

- ・次期委員長に則末 泰博委員 (Dr) を推薦

7) 学術研究推進委員会

- ・今井由美子委員、新谷 歩委員 の退任にともない
奥田みゆき会員 (Dr)、河村 岳会員 (Dr)、
錦見 満暁会員 (Dr)、山田 知美会員 (Dr) を推薦

第2号議案 第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会
合同企画の件 (近藤理事 代; 藤野理事長)

- ・2024 年秋の標記学術集会にて本会との合同企画の提案が近藤理事からあがった。
NPPV や HFNC に関連したシンポジウムによる合同企画が承認された。

第3号議案 2023 年度事業報告および決算書類承認の件 (佐藤理事、川前・西田監事)

<収 入>

- ・年会費：会員数の減少 (1,914→1,880 人) と納入率の低下などにより (−4%)、前年度より 148.7 万円の減となった。年度内の納入率は約 82.5%、未収金は 263.4 万円。
- ・事業費：年 3 回のオンラインセミナー収入は前年度より 78.9 万円の減となった。
- ・広告費：ユーザーレポート掲載社は年間で計 3.5 社となった。
- ・機関誌販売：別刷販売 1 社により前年度より 29.8 万円の増となった。
- ・当期収入は 103,868,737 円、学術集会関連を除くと 32,185,890 円となった。

<支 出>

- ・機関誌等発行費：機関誌の頁数は前年度と同等であった。前年度は過去の機関誌 PDF をホームページに掲載した経費があり、28.6 万円の減となった。
- ・事業費：セミナーの経費は前年度より 36.8 万円の減となった。
- ・委員会費：ARDS 診療 GL2021 の和文詳細版 PDF 作成で 230 万円、一般向け資料作成で 15 万円などを計上し、かつ ARDS 診療 GL2016 の在庫差額・断裁処分の原価相当額計上により、前年度より 285 万円の増となった。
- ・当期支出合計は 92,866,304 円、学術集会関連を除くと 23,158,378 円となった。
- ・次年度繰越利益は 130,987,577 円となった。

<収支合計>

- ・学術集会を除く単年度収支は 11,002,433 円の黒字となった。

<監査報告>

- ・川前監事・西田監事から、会計監査を行い、適切に運用されていることを確認した旨の報告があった。
- ・以上、2023 年度決算について、承認された。

第4号議案 会員管理システム導入の件（藤野理事長）

- ・かねてより、日本集中治療医学会が有している基盤システムを本会の会員管理にも活用させていただく案を検討してきた。2年ほどの開発期間を経て2023年から稼働し、学術集会の参加登録などもそこから行えるようになっている。
- ・日本救急医学会や他学会でも導入する案があり、関連学会が同じシステムを使用することで連携が一層スムーズになるメリットがある。
- ・日本集中治療医学会と契約を結び、先方に使用料を支払う形で導入が行われる見込みであり、現在先方で料金を検討中である。
- ・本件にかかる学会の方針について、承認が得られた。

第5号議案 学術集会運営事務局の決定方法の件（藤野理事長）

- ・今後、運営事務局の選定について会長・理事会の双方で協議していくこととし、必要な契約書も締結することとした。